

平成30年度



第3回 大垣市高校生アメリカ合衆国オレゴン州 ビーバートン市、ユージーン市研修派遣



平成30年10月11日~10月19日

平成30年度フレンドリーシティ交流事業

第3回大垣市高校生アメリカ合衆国オレゴン州ビーバートン市、ユージーン市研修派遣事業

団員名簿（学年、五十音順）

派遣期間：平成30年10月11日（木）～10月19日（金）

No.	役名	氏 名	性別	学校名 役職名 もしくは 学年
1	団長	しゃもと ひさお 社本 久夫	男	(公財)大垣国際交流協会 常務理事兼事務局長
2	総務	かとう さきこ 加藤 咲子	女	(公財)大垣国際交流協会 ビーバートン・ユージーン・邯鄲・ グレンアイラ部会 委員
3	総務	よしやす みえ 吉安 三恵	女	(公財)大垣国際交流協会 職員
4	団員	たが あやか 多賀 文香	女	岐阜県立大垣北高等学校 1年
5	団員	とよだ かほ 豊田 花帆	女	岐阜県立大垣東高等学校 1年
6	団員	まつもと ゆら 松本 唯愛	女	岐阜県立大垣北高等学校 1年
7	団員	まぶち ひなた 馬淵 ひなた	女	岐阜県立大垣北高等学校 1年
8	団員	よしかわ せいな 吉川 清菜	女	岐阜県立大垣北高等学校 1年
9	団員	すずき かほ 鈴木 花歩	女	岐阜県立大垣東高等学校 2年
10	団員	にしむら ゆい 西村 結	女	岐阜県立大垣東高等学校 2年
11	団員	はっとり かえで 服部 楓	女	岐阜県立大垣東高等学校 2年
12	団員	はなき るり 花木 琉里	女	岐阜県立大垣北高等学校 2年
13	団員	はやふじ みずき 早藤 瑞起	女	岐阜県立大垣北高等学校 2年

第3回大垣市高校生アメリカ合衆国オレゴン州 ビーバートン市、ユージン市研修派遣団 日程表

派遣期間：平成30年10月11日（木）～10月19日（金）[9日間]

	月 日	現地時間	交通機関	日 程	
1	10月11日 (木)	8:00 13:00頃 16:10 9:15 13:30-14:15 14:30-16:00	JR東海 新幹線のぞみ 成田EX デルタ航空 貸切バス	大垣駅集合 8:30大垣駅発(JR東海道線)⇒ 9:07名古屋到着 9:33名古屋駅発(新幹線のぞみ2号)⇒ 11:06品川到着 11:25品川駅発(成田エクスプレス21号)⇒ 12:31成田空港到着 成田国際空港着 成田国際空港発(ポートランド国際空港へ、DL68)〈飛行時間9:05〉 ----日付変更線----(時差16時間) ポートランド国際空港着 ビーバートン市長表敬訪問 ビーバートン市警察署訪問 【ホテル泊①(ビーバートン)】	移動 ビーバートン市
2	10月12日 (金)	8:30 13:00-13:30 14:00-16:45 17:00	↓	《ビーバートン市、ユージン市》 ユージン市へ向け、ビーバートン市出発 ユージン市長表敬訪問 オレゴン大学訪問 [キャンパス見学] ユージン市内にてホストファミリーと対面、その後各家庭へ 【ホームステイ①(ユージン)】	
3	10月13日 (土)	終日		《ユージン市》 各ホストファミリーと過ごす 【ホームステイ②(ユージン)】	
4	10月14日 (日)	終日		《ユージン市》 各ホストファミリーと過ごす 【ホームステイ③(ユージン)】	
5	10月15日 (月)	7:30頃 終日 15:00頃		《ユージン市》 ホストファミリーの送りで訪問先高校へ 高校訪問 [ホストシスターの通う学校を訪問] ◇内容:ホストシスターと一緒に、通常授業を受ける ホストファミリー迎え(各学校まで) 帰宅後ホストファミリーと過ごす 【ホームステイ④(ユージン)】	ユージン市
6	10月16日 (火)	7:30頃 終日 15:00頃		《ユージン市》 ホストファミリーの送りで訪問先高校へ 高校訪問 [チャーチル高校とシェルダン高校の2校に分かれる] ◇内容:日本語クラスに参加(プレゼンテーション、生徒と交流) ホストファミリー迎え(各学校まで) 帰宅後ホストファミリーと過ごす 【ホームステイ⑤(ユージン)】	
7	10月17日 (水)	7:30 10:00-12:30 13:30-17:00 18:00-20:00	貸切バス ↓	《ビーバートン市及び周辺》 ユージン市内集合後(ホストファミリー送り)、お別れし出発 ジョージフォックス大学訪問 [大学説明とキャンパス見学] ポートランド訪問 アメリカの家庭でホームパーティー 【ホテル泊②(ビーバートン)】	ビーバートンと周辺
8	10月18日 (木)	8:30 9:00 11:40	デルタ航空 ↓	ホテルを出発し、空港へ ポートランド国際空港着 ポートランド国際空港発(成田国際空港へ、DL69)〈飛行時間11:05〉 【機内泊】	
9	10月19日 (金)	14:45 20:40頃	成田EX 新幹線のぞみ JR東海	成田国際空港着 16:44成田空港駅発(成田エクスプレス38号)⇒ 17:52品川到着 18:17品川駅発(新幹線のぞみ57号)⇒ 19:47名古屋到着 20:00名古屋駅発(JR東海道線)⇒ 20:34大垣到着 JR大垣駅解散	移動

第3回研修を振り返って

公益財団法人大垣国際交流協会 常務理事 社本 久夫

オレゴン訪問は私自身にとっては3年ぶり2回目の訪問ですが、初めて3回目となる高校生派遣団を引率しての参加となりました。

今回の派遣団員は、私を除く全員が女性であり、私が一番緊張しての参加となりました。

オレゴン到着の1日目には、派遣団員全員で、ビーバートン市長にお会いし、2日目にはユージーン市長にお会いすることができ、温かい出迎えのあいさつとオレゴン滞在を楽しんでほしいとの発言がありました。

その言葉どおり、自然豊かなオレゴンの秋深まる時期でしたが、滞在中は晴天に恵まれた日々での滞在であり、これらの日々は派遣団員にとって大変印象深い記憶となったと思います。

なお、ユージーン市長を訪問した時に、市長さんから市の施策に抗議するため、市役所周辺でテント暮らしをするホームレスの青年たちのこと、また市議会議員の半数、幹部職員の多くが女性であることなど、ユージーン市の現状の一端と直面している課題も教えていただきました。

滞在中に私が一番印象に残っているのは、派遣団員たちが当初の不安と期待の中で、2日間の高校体験を精いっぱい頑張っていた姿です。

高校体験の1日目は、ホストシスターなどが通う高校での授業参加、もう1日は日本語教室での英語と日本語によるプレゼンテーションや交流体験で、日本での高校生活では考えられない場面や行動に感動し、時には相違を感じ、まさに体験しないと味わえないものでした。

また、あっという間の5日間のホームステイ体験は、それぞれの心に残る思い出となり、異文化をじかに体験できた貴重な機会となったと思います。

ホストファミリーのアメリカ文化に根差したもてなしを楽しみ、時には戸惑いを隠せない場面もあったと思いますが、現地での心のふれあいは、大きな財産になったのではないのでしょうか。

なお、順調な日程を過ごし、無事帰国後、人身事故のため新幹線が動かなくなり、品川駅で3時間以上待たされるハプニングが起き、みんな疲れてはいましたが、その日の内に無事大垣に帰ってくることができました。

最後に、オレゴンでお会いしたビーバートン市長、ユージーン市長をはじめ市関係者の皆様、コーディネートをしてくださった小沢先生はじめ受け入れ団体であるオレゴン異文化交流協会の関係者の皆様、派遣事業にご理解とご協力をいただきました大垣市、大垣市教育委員会、当協会の部会員の皆様、派遣団員を送り出してくださいました校長先生をはじめ高校関係者の皆様、そして最大の理解者である保護者の皆様など、多くの方々のお力をお借りして今回の訪問が無事に終わったことに、心より感謝申し上げ、今回の報告とします。



・ ・ ・ 研修派遣団を引率して ・ ・ ・

(公財) 大垣国際交流協会 ビーバートン・ユージーン
グレンアイラ・邯鄲部会委員 加藤 咲子

今回のオレゴン州高校生派遣団の引率は、昨年に引き続き2回目となりました。前回の経験を活かし、安全面、生活面等でサポートし、団員が充実した研修ができるよう心がけました。

事前研修では、研修先の情報収集、訪問高校で発表するプレゼンテーションの準備、英会話の練習、パーティーでのダンスの練習等を行いました。研修を重ねるごとに団員達の仲が深まり、団結力が高まる姿が見受けられました。

10月11日、いよいよ出発の日を迎えました。団員は、皆積極的で好奇心が強く、「早くアメリカに行きたい。」とこの研修をととても楽しみにしている様子で、夢と希望に満ちあふれている顔が印象的でした。早朝、大垣駅を出発して成田空港に到着、成田空港からポートランド空港までは約



11時間の長い空の旅でしたが、全員疲れた様子もなく元気にポートランドの朝を迎えることができました。

ビーバートン市では、ドイル市長さんにお目にかかり、和やかに歓談しました。その後、ビーバートン警察署を訪問し、手錠をかけられたり、パトカーに乗せてもらったり、非日常的な体験をしました。

ビーバートン市での研修後に、バスでユージーン市に向かいました。今年は、ユージーン市表敬訪問をしました。市長さんは女性で、ユージーン市の現状を説明してくださいました。団員は市長さんのお話を興味深く聞いており、時には英語で質問したり答えたりする場面が見受けられました。

楽しみにしていたホームステイが始まります。私は、それぞれの家庭で家族の一員となって楽しく過ごして欲しいという思いで見送りました。研修の合間に「ホームステイどう？英語通じる？」と聞くと、「大丈夫です。楽しく過ごしています。」と生き生きと答えてくれたのでホッとしました。学校訪問では、日本語のクラスで、事前研修で準備したものをプレゼンテーションしましたが、自信を持って発表する姿に成長を感じました。「次のクラスは、日本語でプレゼンして。」といきなり先生から要望が戸惑うことなく頑張って説明しました。



今回の研修で良かったことは沢山あります。まず、ビーバートン市、ユージーン市の方々は、私たちを本当に心から歓迎してください、団員の研修がスムーズに進むよう協力してくださいました。また、滞在中は、連日澄み切った青空、紅葉がとても美しく、この時期には珍しいくらいのよい天候にも恵まれました。とりわけ、団員が体調を崩さず、明るく元気にこの研修を修了したことは、引率の私にとって何より嬉しいことでした。

この研修を通して、団員達は現地の高校生やホストファミリーと交流し、様々な思いを抱いて帰国しました。5日間のホームステイは貴重な経験であり、自分自身の生き方、考え方にも影響する研修だったと思います。将来、大垣市の、あるいは岐阜県の、日本のリーダーとなって、世界に目を向け大きく羽ばたいて欲しいと思います。最後に、今回の研修で大変お世話になった小沢先生や御協力いただいた皆様に感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。今後も高校生派遣事業が積極的に実施され、日米の高校生同士の交流が一層充実したものになるよう願っています。

研修を振り返って

公益財団法人大垣国際交流協会 吉安 三恵

平成 28 年度に始まり、第 3 回目の研修派遣事業となり、私自身にとっても 3 回目の訪問でした。毎日、雲一つない快晴で、オレゴンの人々だけでなく大自然までもが私達を温かく迎えてくれたように思います。滞在中、様々な体験をしましたが、その中で 2 つのことを振り返りたいと思います。

一つ目は、学校訪問です。高校に丸 2 日間通い、アメリカの高校生活を体験しました。1 日目はホストシスターの通常の授業と一緒に受けました。アメリカの生徒が通常受けている授業ですから、もちろん英語で行われる授業で、きっと授業の内容はわからなかったと思います。しかし、アメリカの同年代の高校生の授業への取組姿勢から自分を振り返り、刺激を受けたようです。また 2 日目は、団員は



5 人ずつの 2 校に分かれて、日本語のクラスに参加しました。そこでは、「日本の高校生の生活」について英語でプレゼンテーションをしました。発表の間に多々質問があり、準備していたように進まなかったこともあります。質問に答えながら、臨機応変に対応していました。その時は大変だったようですが、5 人で協力しながら乗り越えることができたことは、大きな自信になったと思います。

2 つ目はホームステイです。ホームステイ先が決まったのは、出発の約 1 週間前でした。E メールなどで事前に連絡を取り合うには、十分な時間ではなかったと思いますが、ホームステイ先の情報を渡すとすぐに連絡を取り合っていたようです。ホームステイへの不安もあったようですが、それ以上にホストファミリーと会うのが楽しみになっていました。ホストファミリーとの対面の直前は少し不安の入り混じった顔でしたが、バスを降りて家族と会うと安心しきった顔をしていました。それは、ホストファミリーの方が笑顔で温かい雰囲気迎えてくださっているのが伝わったからだと思います。5 泊のホームステイが終わりユージーン市を出発する朝、どの家族も「我が家に来てくれて本当にありがとう！また会おうね」と言ってお別れをしました。ホストファミリーへの感謝の気持ちでお別れする生徒の涙を見て、ホストファミリーの温かさと、充実した日々を過ごすことができたのだと感じました。

アメリカは、多様な文化が共存している社会です。そして、高校生から様々な場面で多様な選択肢があります。例えば、授業科目の選択において、日本の大学のように自らでスケジュールを決める、また通学方法も徒歩、バス、自分で運転するなどです。自らの責任において、選択することが多々ある多様性の国アメリカ。将来の進む道を考える岐路に立っている高校生にとって、オレゴンで触れた多様な文化、出会った人々の考え方や物の見方、そしてそれぞれ体験し感じたことは、必ず彼女達の将来の糧になると実感しています。そして、近い将来グローバルな世界で活躍する姿を楽しみにしています。



最後に、ビーバートン市、ユージーン市の皆様、コーディネートしてくださった小沢先生はじめ、多くの方のお力をお借りして今回の研修派遣事業が無事に終わったことに、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。



Oregonでの思い出



【ビーバートン市について】

岐阜県立大垣東高等学校 2 年 西村 結



ビーバートン市は、アメリカ合衆国西海岸にあるオレゴン州の都市です。人口は約 9 万人です。オレゴン州最大の都市であるポートランドの近くに位置しているため、商業地区へのアクセスが盛んです。スポーツメーカーのナイキ本社や、IT 関連企業が立地し産業が盛んな一方、自然豊かな溪谷に恵まれています。私たちがアメリカ合衆国に到着していちばん初めに行った都市です。そのため、日本との違いにとっても驚きました。アメリカ合衆国の街並みの印象は、高い建築物が多くあることでしたが、ビーバートン市はとても自然豊かな街でした。

始めに、ビーバートン市役所へ行きました。市役所では、市長さんが優しくお出迎えしてくださいました。市長さんはオバマ前大統領と面識があり、二人で撮った写真を大切に市長室に飾っていました。歓談を終えた後、市長さんに勧められ市役所の前にあった公園へ行きました。その公園では、移動販売の車がいくつもあり、アイスクリームやホットドッグ、ラーメンやお寿司など様々なものが販売されていました。ベンチもあったため、仕事の昼休みの人や、家族連れの人など多くの人で賑わっていました。



次に、警察署へ行きました。警察署では普段見ることのできないものや、できない体験をさせていただきました。具体的な体験としては、警察署にある簡易的な牢屋に入りました。牢屋はとてもせまく、冷たく、頑丈でした。他には、手錠をかけさせてもらったり、警察犬と触れ合ったりしました。目の前で警察犬の訓練を見させてもらいました。警察官の人が、声をかけると警察犬は一気に走り出します。とても迫力がありました。しかし、普段はおとなしいため、声をかけたり触ることが可能でした。大きくて硬いえさを食べていたのですが、歯がとても鋭いため、すぐにぼろぼろになってしまいました。

ビーバートン市では、普段できないことをさせてもらいました。アメリカの雰囲気やさまざまなところで感じることができました。市役所でも、警察署でも、私たちを案内してくださる人はとても優しい人でした。不安が大きい初日でしたが、優しい対応で安心して過ごすことができました。

【ユージーン市】

岐阜県立大垣北高等学校 2 年 早藤 瑞起



私達は、ユージーン市に着いて、はじめに私達は街中を散歩したり、ショッピングをしたりしました。街並みを見ながら、アメリカだなんて思いました。しかし、ユージーン市の役所に行くと、フロント側にホームレスの人々がいるから裏側から入ってきてと言われ、驚きました。そして、ユージーン市の市長さんは女の方でした。市長さんは、ユージーン市の今の状態を私達に説明してくれました。まず、ユージーン市は

自然を大切に近代化を目指している事を話してくれました。ユージーンはメープルの名産地です。また、女性の職業率が高く、議員は 8 人中 4 人が女性でした。ですが、課題もたくさんあり、特にホームレスの人数が減らないことらしいです。上述のようにホームレスが市役所の前に多いのは、今の政策への行動での抗議であり、私達は、これに向き合っていないといけないと市長さんは、話していてカッコいいなと思いました。また、市長さんはすごく優しい人で、私達全員分のお土産をくれました。中には、オレゴン大学のマークが入ったミントタブレットや、ユージーン市名産のハチミツなど、たくさんのものを頂きました。市長さんの話を聞いて、私も将来は女性であっても男性に負けなくらい働けるようになりたいと思いました。



次に、オレゴン大学へ行きました。オレゴン大学では、大学生の方が自由に過ごしている姿を見ながら、日本でも大学は自由ですが、上半身裸の人や、大学の敷地内でセグウェイを乗りながら、片手に箱に入ったピザを持っている人は見かけません。やはり、アメリカは自由の国というように、国民性も自由なんだと改めて感じました。また、オレゴン大学は、アメリカンフットボールチームがあり、そのチームはアメリカでとても有名で、地元の人に人気です。その日は、アメリカンフットボールの試合の前日だったので、お祭りみたいに屋台が出ていました。みんな楽しそうな雰囲気でした。オレゴン大学のショップの「ダックスストア」では、Tシャツやマフラー、帽子などが売られていて、どれもデザインが良くカッコ良かったです。その後、大学の図書館に行きました。やっぱり、日本と同様中が広く、モダンな感じがしました。そこでは、階によって本の種類が違い(例えば、7 階が音楽、2 階が小説など)がありました。本の中には、英語だけでなく、日本語の本もあり、すごく興味深かったです。



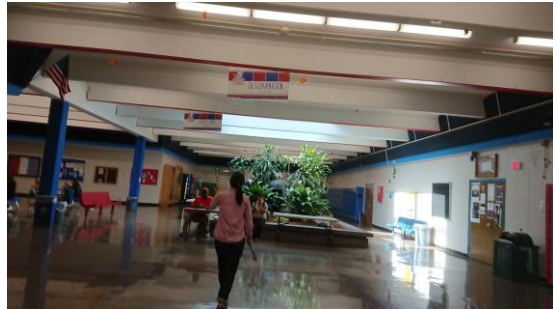
今日の 1 日で、ユージーン市のことを多く学ぶことが出来ました。学んだことを日本と比較しながら、ユージーン市の良いところを取り入れていけると良いと思いました。

【チャーチル高校】

岐阜県立大垣北高等学校 1 年 多賀 文香

私は 2 日間ホストシスターが通うチャーチル高校に行き、私たちと同年のアメリカの高校生の学校生活を体験した。

アメリカの高校に行くにあたって、まず高校へ行く時の手段として自分自身の車で行く、学校の自由な風潮、先輩と後輩のしきたりが無いなど例を挙げるときりが無いほど驚いたことがたくさんあった。それらは日本だったら絶対にありえないことばかりで、現地で実際に学校生活を体験したからこそ分かったことばかりだった。アメリカには平屋建ての建物が多く、2 階建て以上の建物が見られたのは都市部の一部で高校も平屋建てだった。その分、学校の敷地が広く、私のホストシスターのタチアナ



は「学校の敷地が広いから教室の移動が大変だ」と教えてくれた。アメリカの高校は日本の学校とは違い、生徒が授業ごとに各教科の先生がいる教室に行く必要があるため、様々な生徒が休み時間になると廊下に出る。だからこそ、多くの生徒同士の交流があり友人の輪が広いようだ。また、それだけでなく授業にもサイト同士のかかわりが深い理由があるように思えた。なぜなら、高校の授業は必ずしも

全員の年齢が一緒だとは限らない。現に高校 4 年生のタチアナは高校 2 年生の子と一緒に授業を受けているというのもあった。最初は驚いたが、とても楽しそうに多くの友人たちと話している現地の高校生を見て、とても素敵だとも思った。

現地の高校生と一緒に過ごしていると、彼らは授業中の意見発言が多く、日本人の私に対して日本語でコミュニケーションをとってみようと挑戦していたり、私が聞き取りやすいように簡単な英語でゆっくり話してくれたりしたことから、私は彼らが授業への意欲があり、どんな人に対してもフレンドリーであることがわかった。日本の私たちの高校と比較してみても、授業中に飛び交う意見の量も多く自分の



考えをまわりに言うときに、「この考えは本当にあっているのだろうか。」と失敗を恐れているという様子も見られなかった。これはきっと、一人一人が自分の考えをしっかりと持っているからこそ、周りに流されることも無いのだろうと思う。

2 日目の日本語クラスでもプレゼンでも、たくさんの意見や質問が飛び交った。また、中には 2 回も日本語クラスのプレゼンに来てくれた子もいた。それだけ日本について興味を持ってくれているということも伝わり、とても嬉しかった。

なかなか体験できないアメリカの高校生生活を体験出来てよかった。



【シェルダン高校について】

岐阜県立大垣北高等学校 2 年 花木 琉里

私は 2 日間シェルダン高校を訪問しました。公立高校で、とても生徒数が多いです。学校の外観は日本の大学のように、校舎の他に、クラブ活動用のグラウンド等があります。学校周辺にはマーケットやファストフード店があり、生徒たちは昼休みになると学校を出てそれらを利用したり、校内の売店で昼食をとったりします。生徒たちの主な登校手段は車で、親の送り迎えか、生徒自身の運転で登校します。

1 枚目の写真は、1 日目にホストシスターと一緒に通常授業を受けた時のものです。シェルダン高校には、ホームルームというものはなく、日本では教科担任が教室に来て授業を行うのに対し、自分の取りたい科目を選んでその教室へ移動して受講します。また、写真からもわかるように、生徒たちは私服で登校し、授業中に飲食をしてもよく、自由な校風です。選択することのできる科目は日本にある教科とほとんど同じで、この写真は化学の授業です。黒板というものはなく、先生はホワイトボードに書き込んだり、プロジェクターで映像を映したりして授業をします。そして、シェルダン高校には日本語クラスがあります。日本語クラスでは、雰囲気が一気に変わり、日本の授業体制にのっとった授業です。起立、礼の号令から始まり、改めて日本の学校の厳しさを感じました。



左の写真はその日本語クラスのものです。この授業では、2～3 人のグループで、ゲストを決め日本語でその人にインタビューをするという、会話の練習をしていました。日本人が学校で英語を学ぶのとは大きく違って、試験のためではなく、主に話せるようになる事を目的としていました。シェルダン高校の生徒たちはこのクラスで約 3 年間日本語を学び、3 年目の生徒になると、とても上達しています。日本人は中学生の頃から学び始めるのにもかかわらず、話せるようにならないのは学歴を重視

する日本の良くない所だと思いました。

アメリカの高校生は選択授業のため、生徒によって始業時間と終業時間が違います。授業以外の時間は、クラブ活動をしたり、早いと昼頃には帰宅したりするそうです。授業に予習は必要なく、宿題のない日もあり、放課後には友達と遊びに行っていて、羨ましく思いました。そして驚いたのが、軍隊の勧誘が高校に来ていたことです。日本には軍隊はないし、高校生の自衛隊に対する関心も薄いと思うので、高校生を対象にそういうものがあるのは、アメリカならではの事だと思いました。また、シェルダン高校には、教室ごとにアメリカ国旗がありました。音楽が鳴ると、生徒たちは席を立てて手を胸にあてます。日本ではあまりない、愛国心を感じられました。生徒も先生も、日本から行った私にとっては皆、個性にあふれていて、新鮮でした。日本のような厳しい規則がないからこそ、自由であると同時により主体的に行動する事が求められています。

【サウスユージーン高校】

岐阜県立大垣北高等学校 1 年 馬淵 ひなた

サウスユージーン高校は、午前 3 時間、午後 2 時間の授業がある。しかし、私のホストシスターは 1 時間目の授業を取っていなかったもので、ほかの生徒より遅く家を出た。私たちはバスを使って学校へ行った。2 時間目が始まるまで、ホストシスターは私をいろいろな所に連れて行ってくれた。図書室には当たり前のように「manga」のコーナーがあり、当たり前のように日本の漫画が並んでいることに驚いた。また、この高校の色である紫でドアやロッカーが統一されていた。壁にはいたるところに絵が描かれていた。アートのクラスの子たちが描いたものらしい。理科の教室がある廊下の壁には原子記号をデザインした絵、音楽の教室がある廊下の壁には楽器の絵が描かれており、美術館にきた気分になった。



ホストシスターの最初の授業はアートの授業だ。授業中にイヤホンで音楽を聴いていたり、お菓子を食べていたりする生徒に若干圧倒されたが、作業に入ると誰もが真剣だった。全員が同じような作品を作るのではなく、小さなキャンパスや大きなキャンパス、色鉛筆、絵具、クレヨンなどをすべて自分で決め、自分の作品を作っていた。日本の学校の美術は、先生がお題を出し、そのお題に沿って作品を作り上げていくので、そこが違うと思った。まるで美術を専門にしている大学のような雰囲気があった。次の授業はライティングだ。この日は俳句や短歌を学んでいた。最後に実際に作ってみることになった。出来上がった詩を先生が声に出して読み、アドバイスする。私なら恥ずかしいからやめてほしいと思ってしまうが、手を挙げて積極的に先生を呼ぶ生徒を見てびっくりした。授業を受けさせられている雰囲気は全くなく、学びたいことを自分から学びにいくという感じだと思った。

3 時間目が終わると、生徒たちはカフェテリアや近くのレストランに足を急がせる。ランチの時間は 40 分で、生徒たちは思い思いの昼を過ごしていた。学校外に出ていってもいいので、自分でどう過ごすか決められるのは楽しいと思った。ランチ後、ホストシスターが、キャンピングの先生（4 時間目の授業の先生）に許可を取ってくれ、少しだけ日本語クラスをのぞいた。折り紙がたくさん飾ってあるかわいらしい教室で、生徒たちは「～たり、～たり」の文法を習っていた。日本語を外国語として習っている光景はなんだか不思議だった。キャンピングの授業の最初は、この前の土日に行ったキャンプの反省会だった。先生がとてもフレンドリーな方で、まるで友達のように生徒に接する姿が印象的だった。授業は中庭のような場所で行われ、サンドウィッチを作ったり、お菓子を食べたりしながら授業していた。次にスポーツをした。生徒たちは運動場へ移動し、私の知らないスポーツをやり始めた。私も参加したかったが、ルールも分からないので難しいかもしれないと思い、見学することにした。試合中も「Nice!」などの掛け声が聞こえてきて、本当に楽しそうだった。次は絶対に参加してみたい。



アメリカの高校で一日暮らすことで、生徒たちの活気に満ちた姿や自由な校風をたくさん感じる事ができた。そして同時に日本の高校の良さも再確認することができ、本当にいい経験になったと感じた。

【マリスト高校】

岐阜県立大垣東高等学校 2 年 鈴木 花歩

アメリカの高校は、1 階建てでたくさんの校舎があった。どの校舎も同じような造りで本当に迷路のようだった。



私立の学校ということもあってか、学校の始まりは、お祈りから始まった。そのような習慣のない私には不思議な時間だったけれど、宗教と人々の生活は強く結びついているのだと実感させられた。

服装は基本的には自由だが、私の行った日は皆、帽子とチェックのシャツを身に着けてカーボーイ風になっていた。どうやらある期間ごとに生徒がテーマを決めて



いるらしく、自分たちでより楽しく学校生活ができる

ような工夫をしており面白いと思った。

教室はその部屋の先生の自由らしくそれぞれの先生の好みになっていた。地理の先生の教室は壁一面に新聞紙が貼ってあり、趣味の自転車が飾ってあったり、化学の先生の教室には日本のマラソンのポスターが飾ってあったり、英語の教室には犬がいたりして面白かった。

授業では、iPad を使用していた。授業の内容は全て iPad に入っており、ノートをとっている人はほとんどいなかった。教科書を持ってこなくていいので荷物があまりなくて羨ましかった。生徒は分からないことがあるとすぐに手を挙げ、先生が問いかけをするとすぐに皆が発言していて積極的に授業に参加しようという姿勢が多く見られた。先生もずっとボードに向かって書いている授業ではなく、生徒の方を常に見ながら、たまに冗談を入れたり、質問を投げかけたり、会話をしているような授業だった。また、同じ授業を受けているからと言って皆友達というわけではなさそうだった。日本のように毎時間同じクラスメイトと授業を受けるわけではないから、私が友達のことをクラスメイトだと言って紹介しても、きっと私が思っているのとはちょっと違う意味でとられるだろうと思った。



日本語の授業に参加させてもらった時、自己紹介をしてもらおうと 14 歳から 17 歳まで年齢に差があった。日本にはない飛び級という制度が本当にあることに驚いた。

私の通っている高校とは違うことが多すぎて 1 日中驚きの連続だったが、中でも 1 番驚いたのは私のような違う国でかつ制服を着ているような変わった人がいても誰も驚かないことだ。日本人は他人に合わせるのが良いみたいな雰囲気があり、周りの人のことを気にするから、もし学校に 1 人でも見慣れない人がいたら皆その人のことを好奇の目で見ると思う。だから、自分は自分、他人は他人というスタイルが何ともアメリカらしいと思った。

私と同じ年代の人ばかりなのに違う文化や環境で育つとこんなにも考え方が違うことが面白く、とても刺激的だった。

【チャーチル高校でのプレゼンテーション】

岐阜県立大垣東高等学校 1 年 豊田 花帆

私たちは、チャーチル高校の日本語クラスで、日本についてのプレゼンテーションをした。チャーチル高校では、70 分授業 2 分休みというサイクルの授業だった。

1 時間目のクラスでは、休み時間にプレゼンテーションの準備をしておくことができず、開始するまでに手こずってしまった。また、生徒や先生から次々に内容に関する質問が途中であってもたくさん飛んできた。このことは私たちも予想し、練習してきた事だったが、いざ本番となると英語での説明が難しかったり、質問が理解できなかったりしてなかなかスムーズに答えることができなかった。しかし、5 人で協力し、知っている単語をつなぎ合わせて何とか説明することができたときは、すごくうれしかった。2 回目や3 回目になるとだんだん慣れて、プレゼンテーションをしている私たちも楽しむことができた。アメリカの人達は、自分たちの意見をもってしっかり発表できるところに、日本との違いを感じた。



今後の自分にも取り入れたいと思ったし、日本でも友達などに話したいと思った。

日本語の上級者のクラスでは、簡単な日本語を交えてプレゼンテーションをした。このクラスでは、何人かの生徒が夏に大垣市を訪れたことがあった。学校についてのプレゼンテーションでは、「アメリカのように教室を移動した方がいいか、日本のように同じ教室のままの方がいいのか」という事について議論する場があるなど、一緒に考えることもあった。また、文化祭について発表しているときにはアメリカの学校行事について教えてもらうこともあり、私たちも学ぶ事がたくさんあった。そして、質問や意見を日本語で伝えようとしてくれてとてもうれしかった。



私が自己紹介で私の趣味は音楽を聴くことで、「特に kpop が好きだよ！」と話すと「どのグループが好きなの？」と積極的に話しかけてくれて、英語で自分の好きなことについて話すことができた。私は、アメリカに友達ができたと

うに感じて、とてもうれしかった。

このプレゼンテーションを通して、日本のこんなところに疑問を持つんだという驚きや、どのようにすれば分かりやすいかなど学ぶ事がたくさんあった。また、自分の話した英語が伝わるのがどれだけうれしいことなのかを知ることができた。私は、これらの貴重な体験を忘れずに大切にしていきたいと思う。また、日本に帰っても、これらの体験をたくさんの人に伝えていきたい。



【シェルダン高校でのプレゼンテーション】

岐阜県立大垣北高校 1 年 吉川 清菜

シェルダン高校では、日本語 1 年生クラスで 1 回、2 年生クラスで 2 回、3 年生クラスで 3 回プレゼンを行った。どのクラスの生徒たちも、私たちの話す内容や画像を興味深そうに見聞きしており改めて日本とオレゴンの繋がりを感ずることができた。シェルダン高校の日本語教室の壁には、日本の都道府県庁所在地が平仮名で書かれた地図や、ジブリ映画のポスターが掲示されていた。また日本語クラスの生徒たちは全員、英語の名前とは別に日本語の名前を持っており、研修に参加したメンバーと同じ名前の生徒もいた。日本では英語の授業であっても日本名を使用しており、また英語のクラスで名前を呼ぶような活動をしないため、日本との教育の違いを感じた。



プレゼンを始める前、生徒の前で 1 人ずつ自己紹介をした。生徒たちは私たちが紹介したことを日本語でメモしており、時には漢字をも使用していた。日本人でも難しいと感じることがある日本語を、母国語が日本語ではない生徒が使っている場面を目の当たりにし、とても驚いた。プレゼンの後、生徒たちから沢山の質問を受けた。日本の学生は質問の時間を設けてもあまり積極的に質問をするイメージがないが、オレゴンの学生のほとんどは皆積極的に手を挙げて質問しており、国民性の違いを感じた。質問の時間には日本の文化、音楽・楽器、学校の教科や部活など、とても身近なことについて交流した。特に日本のアニメや漫画は英語版が出版されるほど有名で、日本で有名なものは勿論、中には日本人でも知らないようなコアなものまで知っている生徒もいた。他の話題でも大いに盛り上がり、オレゴンの学生と少しでも親しくなれたと思った。授業の終盤には、オレゴンの生徒数名と大垣のメンバー 1 人が 1 つのグループになり、日本語と英語を使って交流した。好きな日本食の話やメンバーがホームステイ中に訪ねた場所の話をした。生徒たちの日本語は想像以上に上手で圧倒された。いかに母国語が日本語でない人に対して分かりやすい言葉を選んで伝えるか、それは難しいことだったが、今後私たちがグローバルな社会を生きていく上でとても重要なことだと思う。



通常の海外旅行では、高校を訪問し現地の高校生と直接関わることはほとんどない。そのため今



回のシェルダン高校訪問は、私たち日本の高校生にとって大変貴重な経験になった。元気で活発なオレゴンの高校生から様々なことを学び、英語だけでなく日本語も磨くことができた。さらにオレゴンと日本の教育の違いや国民性の違いを垣間見ることができた。普通に日本で暮らしているだけでは考えることすらしないようなことを、オレゴンで実際に見聞きし、生徒との交流の中で見出すことができ、実りある 1 日になった。

【ジョージフォックス大学】

岐阜県立大垣北高等学校 1 年 松本 唯愛

私達は、ジョージフォックス大学という私立の大学へ見学に行った。

芝生が広がっている中に木や花などの植物が美しく植えられていたり、ベンチがあったりして、開放的、かつ、落ち着いた雰囲気为学校となっていた。2 日目に見学したオレゴン大学に比べると、規模は少し小さいそうだが、レンガ作りの建物やガラス張りのカフェテリア、本格的なマシンのそろったジム、学生が劇をしたり歌ったりする大講堂など、様々な施設が整っていて、学生たちはとても充実した時間を過ごしているようにみえた。

ジョージフォックス大学は、留学生の入学の制度もつくりられている。実際に、日本人の留学生にも会うことが出来た。そのような制度を経て、ジョージフォックス大学というオシャレで素晴らしい環境が整った大学に留学できることを知り、ぜひ私も入学してみたいと思った。



昼食は、この大学のカフェテリアでとった。日本の学校はお弁当を持って行ったり、購買で買ったりして、食べる。しかし、この大学では、サラダやお菓子、デザート類はすべてバイキング形式になっていて、ハンバーガーやご飯、いも、肉類は一人分の制限はなく、自分の食べたいだけの量を頼むことが出来、おかわりも自由だ。だから、自分の満足する量の食事をとることができる。

校内の案内は、この大学に通う学生 4 人と、教員 1 人が案内してくれた。大講堂や、ジム、テニスコートなどに案内してくれた。また、このジョージフォックス大学について、たくさん教えてくれた。

この大学のスローガンは、“Be known “だそうである。この大学で活動する人たちと互いに知り合い、理解しあい、温かい関係を築けるようにという願いが込められている。そして、第 2 の家族と言えるぐらいの、深い絆を築きあっているそうだ。だから、学生同士はもちろん、教員とも、仲が良いそうだ。

このような、自由で温かい学校に進学してみたいと強く思った。



【ポートランド・ホームパーティー】

岐阜県立大垣東高等学校 2 年 服部 楓

私たちは 17 日にポートランドを訪問しました。ポートランドはオレゴン州最大の都市で、近くには雪を頂くフード山がそびえています。

ポートランドではまずダウンタウンに行きました。とにかくどの建物もきれいで高く、まるで東京にいるみたいでした。大きな広場ではアルパカがいるなど、日本ではなかなか見られない光景も見ることが出来ました。ひとグループに一枚地図が配られ、初めての地で行動をしました。初めての地ということもあり、途中で迷子になってしまい大変でしたが、栄えている部分でだけでなく、そのほかの一面も見ることができ、よい経験になったと思います。また、迷ったとき近くにいた地域の人に尋ねてみると、とても丁寧に優しく教えてくださいました。私にとってこのポートランドのダウンタウン散策は新しい発見や現地の人々の温かさにつながることで、いい機会だったと思います。



この日の夜には、ビーバートン市のあるご家庭でホームパーティーに参加しました。そのご家庭とは、以前彼らが
大垣を訪れたとき加藤さんがホストファミリーとして受け入れをしたご家族でした。そのご家族は日本が本当に好きらしく以前加藤さんからもらった風呂敷を額縁に入れて、飾ってあったり、壁に飾ってある地図の日本のところにお気に入りの国にさすピンがさしてあったりするほどでした。私はそれを見て、とても嬉しく思いました。そういう姿を見て、私もその国のよいところを見つけたり、そ

の国の人々と関わりたいと思いました。

ハロウィーンが近かったということもあり、ホームパーティーはハロウィーン一色でした。日本ではこのようなパーティーを開くこともないし、高校生など若い世代だけで楽しむ行事ですが、アメリカでは家にまで飾り付けをし、パーティーを開き、一部の人だけでなく、たくさんの世代の人が楽しんでいるところに私はよさを感じました。

今回の研修で私は、多文化にふれることの楽しさ、他国の人と関わることの楽しさを学びました。今回学んだことを生かし、将来の夢に役立てていきたいです。





ホームステイの思い出



【ホームステイ】

岐阜県立大垣北高等学校 1 年 多賀 文香

私にとってこの海外派遣は生まれて初めての海外経験でもあった。そんな私にはすべてが新鮮で慣れない環境の中とても緊張していた。海外に行ったこともなければホームステイなどという体験もしたことがなかったからだ。初めてホストファミリーに会った日、とても緊張していたのを覚えている。「ちゃんとコミュニケーションはとれるのだろうか」「ホストシスターとは仲良くなれるのだろうか、なれなかったらどうしよう。」という不安な気持ちでいっぱいだったが、そんな不安は



無意味だったと思わせるほどの素敵な笑顔で、初対面の私をハグして温かく迎えてくれた。私のホストシスターのタチアナは、高校の日本語教室で習ったという日本語で積極的に私に話しかけてくれた。ホストファザーもホストマザーも「日本のことを知りたい、日本語を教えてほしい。」と言ってくれたり、私が日本からのお土産として持っていたキットカットの抹茶味を見てとても喜んでくれたりした。そんな素敵な家族と過ごした 5 日間はとても充実したものになった。

休日はホストファザーとホストマザーの職場に行った。職場の人たちも私をハグしてくれたり、たくさん話しかけてくれたりした。ホストマザーは大学の食堂で働いており、現地の大学生の人ともたくさん話す機会があった。また、次の日はかぼちゃ畑にホストマザーの職場で一緒に働いている人と大学生の人と一緒にいった。なぜ、かぼちゃ畑に連れて行ってもらったかというアメリカに折角来たのだから、アメリカのハロウィンを楽しんでもらいたいということで、ジャック・オ・ランタンをつくろうとタチアナが提案してくれたからだ。大人数で遊びに行くというのが印象深く、それが人と人とのつながりがとても深い理由なのだと実感することが出来た。ホストファミリーと一緒に過ごしていると、いろいろな人に話しかけられてホストファミリーの人間関係の広さに驚いた。私はアメリカにいる外国人という立場だったがそこには垣根はなく、みんな笑顔でフレンドリーだった。



私は、このホームステイで言葉の壁を乗り越えるのは案外簡単なものなのではないかということを感じた。自分の伝えたいことを相手に伝えるうえで一番大切なのは、いかに言葉をうまく話すことではなく、伝える側とそれを受け取る側の気持ちにあると思う。伝えようという気持ちとそれを聞こうと思う気持ちが大切であって言葉というのは気持ちを助けるツールの一つに過ぎないというのを痛いほど実感させられた。

【ホームステイ】

岐阜県立大垣東高等学校 1 年 豊田 花帆

アメリカに着いて 2 日目、私たちの乗ったバスはホストファミリーの待つ場所についた。私は、日本にいる時からメールで連絡を取っていたホストファミリーと会うのは楽しみだったが、少し不安もあった。しかし、ホストファミリーに会ってすぐにその不安は消えた。私のホストファミリーは、お母さん、私の 1 つ上の女の子、そして 5 匹の猫だった。ホストファミリーは、トランポリン、スーパー、ショッピングモールなどたくさんの場所に連れて行ってくれた。その中でも印象的だったのは、「かぼちゃ畑」だ。そこは、ずっと先の方まで見えるほど広い畑に映画や絵本に出てくるようなかぼちゃがたくさん転がっている、私が思い描いていたアメリカの景色が広がっていた。そしてかぼちゃも抱えられないほど大きくて、重たかった。私はそこで本当にアメリカに来たんだという事を実感した。ホストシスターは、「どの家庭でもかぼちゃを買って仮装をして、ハロウィンを楽しむんだよ」と教えてくれた。



私は、ハロウィンの仮装や装飾も買いに行った。日本にもたくさん売っているけれどアメリカでは細かいところまでリアルに作られているジャックオーランタンやお化けがたくさんあって、本当に怖かった。スーパーでもいたるところに子供たちに配るためのお菓子がたくさんあった。ホストマザーは、私のために少し早いけれどハロウィンの夕



食を作ってくれた。本当に物語のような話で、アメリカの文化にまじかに触れていると感じて、とてもうれしかった。

私は、日曜日の夕食に日本のカレーを作った。私のホストシスターは、今年の夏に日本に来ていて日本のお米が好きだった。ホストシスターもホストマザーも少し辛いけれど日本のカレーはおいしいねと気に入ってくれて、おかわりまでしてくれた。私も少しは日本の文化を伝えられたかなと思い、うれしかった。

初めの頃は、不安なことも多かったけれどホストファミリーがアメリカの事を教えてくれたり、日本の事について質問してくれたり、積極的に話しかけてくれて楽しく過ごすことができた。また、実際に家庭での生活を体験して日本との違いや、イメージしていたことが体験出来てとても良い経験だった。この経験を大切にしたい。



【ホームステイ】

岐阜県立大垣北高等学校 1 年 松本 唯愛

私は、アメリカ在住の板井さんというご家庭にホームステイをした。苗字からもわかる通り、日本人の家庭である。ホストファザーとホストマザーの出身は熊本県だそうだが、アメリカに移住し、移動形式の屋台のお店を開いて生活しているそうだ。子どもは3人で、長男・次男は独立して一人暮らし。家には、ホストファザー、ホストマザー、末っ子のホストシスター、犬・猫が暮らしていた。



ホストファミリーが日本人であったこともあり、日本とアメリカの違いを、より細かく、多くのことを教えて頂けた。例えば、「家」についてである。日本は、「家を購入する」というと、新築の家を想像する人が多いだろう。なぜなら、日本の家は、一般的に、30～40年程で古くなり、リフォームしたり、売ったりする。しかし、アメリカでは、中古の家を購入することが一般的で、私が滞在していた家も、築約50年の中古で購入されたそうだ。しかし、築50年とは思えないほどとてもきれいな家だった。



ホストシスターは、日本人だが、生まれも育ちもアメリカで、学校などでは英語を話し、日本でいう高校1年生。学校で知り合った子も、ほぼ私より年下だった。しかし、女子は皆お化粧をしていたり、髪の毛を染めていたりしていて、とても大人っぽくみえた。

ホストシスターを通じて仲良くなったアメリカ人とロシア人の女の子2人と私、4人でアイススケートに行った。アイススケートは、あまり経験がなかったけど、アイススケートを一緒にやるということで、外国の子達とより一層

親交を深めることが出来、とても嬉しかった。

一方、ホストファザー、ホストマザーが店を開いているため、2人ともとても料理が上手だった。ステーキに、ニジマスのホイル焼き、ニジマスのカルパッチョ、マツタケご飯など、手の込んだ美味しいお料理を、毎日、次々と出して頂いた。アメリカの食材を使った料理をたくさん頂くことが出来た。

今回、ホームステイ先で、自分の目を見て、耳で聞き、そして、体で体験するという経験を通し、多くのことを学び、視野を広げることが出来たように思える。今後へ活かしていきたいと思う。



【ホームステイ】

岐阜県立大垣北高等学校 1 年 馬淵 ひなた

私にとって初めての海外、初めてのホームステイで、楽しみな反面、すごく不安な気持ちもあった。でも、ホストファミリーはあたたかく私を迎え入れてくれて、本当に充実した、最高の5日間を過ごすことができた。私にとってはホストファミリーと過ごした全ての時が一生の宝物になると思う。しかし、すべて書くことはできないので、特に心に残った三つのことを書きたいと思う。

一つ目は、サタデーマーケットだ。とても広くて、様々な種類のお店が並んでいた。見たこともない不思議な野菜や果物、手作りのアクセサリを見て歩くのはとても楽しかった。お店の人たちはとてもフレンドリーで、「調子どう？」とたくさん話しかけてくれた。また、日本のキャラクターである、ポケモンやキティちゃん、マリオも当たり前のように売られていて、日本の文化が海外に浸透していると思った。

二つ目は、ウェルカムパーティだ。私にとって、こんなにたくさんの外国の方が英語で会話している光景を目にしたことがなかったので、全てが新鮮でとてもいい刺激になった。みんなとても親切で、「あなたの町にはなにがあるの？」「竹は日本で育つのだね？」「アメリカのすしは日本のよりも良い？悪い？」とたくさんの質問をしてくれた。一回では聞き取れず、何回も聞き直したり、いいたいことを英語にすることができないときは悔しかったが、私の言っていることを理解しようとしてくれて、本当にうれしかった。

三つ目は、ハイキングだ。家から一時間くらいかけていく山には大きな滝があって、それを見に行くことになった。一緒に行ったのはホストマザーとステップシスターのリリコイだ。車の中では、お菓子やパンを食べながらおしゃべりをした。日本の学校の話になると、ステップシスターは本当に驚いていて、文化の違いを感じた。山に着くとさっそくハイキングだ、といっても私が経験したことあるようなものではなく、人の手の加えられていない場所から通れそうな道を見つけ出して進むのだ。ハイキングをしている他の人と情報を交換し合いながら進んでいくのは冒険しているみたいでとても楽しかった。ホストマザーは自然についていろいろ知っていて、たくさんのことを教えてくれた。滝もすごく大きな滝で、水がかかるくらいまで近くに行くことができた。壮大な自然に

囲まれて、身も心も晴れやかな気持ちになったように思う。

初めてのホームステイは不安なこともたくさんあったけど、とても楽しかった。ホテルに泊まるだけでは経験することのできない、アメリカの方のリアルな日常に入ることができて、異文化に触れることができたと思う。また、私がこのホストファミリーにとっての日本人代表として、日本文化の良さや習慣について共有できていたらいいと思う。



【驚きと変化に満ちた一週間】

岐阜県立大垣北高等学校 1 年 吉川 清菜

私にとって初めてのアメリカ訪問。アメリカで過ごした 8 日間はとても実りあるものだった。飛行機から降りた瞬間に感じた日本とは異なるあの空気を、私は一生忘れない。

この研修の大半を占めていたホームステイ。私は 3 か月ぶりのオレゴンの友達との再会にとってもわくわくすると同時に、全く母国語が通じない環境に身を置くことに大きな期待と若干の緊張を感じていた。Kaia と再会、ホストファミリーと対面した時のハグで、その緊張はなくなっていた。実際に Kaia の家にホームステイして沢山のことを経験し学んだ。彼女の家は農家だった。私の住居周辺では見られない広大な土地で、鶏、アヒル、ヤギなどの家畜、トマト、スイカなどの農作物を育てていた。私は毎日農家の手伝いをした。ヤギの乳しぼりや畑で野菜の収穫をした。本格的な農業体験を人生で初めてできた。ある日の夕食にクリームパスタを食べた。Kaia の母が「この料理の材料の中で、スーパーで買ったものはパスタと調味料だけ。後はすべて畑で採れたものよ。」と教えてくれた。食料自給率が非常に低く、農家の減少が目立つ日本に住んでいては考えられないことで、私は衝撃を受けた。



とにかく家族は私を温かく迎えてくれた。Kaia の家族はとても仲が良く、食事中や移動中の車内はいつも会話と笑顔が絶えなかった。私が会話に入りやすいような英語で様々なことを教えてくれた。楽しい時間はあっという間に過ぎてしまったが、日本で生活しているより時間がゆったり流れているように感じた。休日には様々な場所に連れて行ってくれた。私は何気ない日常生活が経験できたことが一番嬉しかった。

Kaia と一緒に訪問したサウスユージーン高校では、授業の最初にクラスメイトの前で挨拶した時に「Welcome!」と声を掛けられた。日本ではこのようなことが少ないように感じる。国民性の違いを改めて感じ、オレゴンの人々の温かさを感じた。町に目を向けても、日本では「日本」というロゴのものを身に着けている人はほとんどいないのに対し、オレゴンでは「OREGON」とデザインされたものや服を身に着けている人が沢山いた。私は Kaia からサウスユージーン高校の T シャツをお土産にもらった。自分のアイデンティティを大切にしている気持ちや日本とは異なると感じた。



私はこの研修派遣を通して、一回りも二回り大きくも成長したと思う。机で勉強しているだけでは経験することのできない貴重な体験ができた。私はこの経験を未来の自分に活かさなければならない。まだ自分の将来像がぼんやりしている。でもオレゴンで温かく迎えてくれた方々、この事業に携わった方々、一緒に研修派遣に参加した同年代の仲間、沢山のひととの関わりの中で、自分を高めることができたことを誇らしく思う。もう一度オレゴンを訪れ、さらにアメリカについて学びたい。

【ホームステイ】

岐阜県立大垣東高等学校 2 年 鈴木 花歩

私は、海外へ行くのもホームステイも初めてなのでとても緊張していた。事前にメールで何度かやり取りしたものの不安な気持ちいっぱいでもストファミリーと対面した。向こうにも少し緊張した感じが見えて私もホストファミリーも同じなのだと思うと何だかほっとした気持ちになった。



1 日目の夜は、日本食のお店へ食事に行った。まずお店に入ったとき、皆、箸を使って食べていることに驚いた。日本食なのでどんな料理か分かるだろうと思ってメニューを見たら英語に翻訳されていて何の料理かさっぱり分からなかったし、これって日本食なの？と思うものが多くあったことが面白かった。ホストシスターのエリザベスに勧められて「天ぷらチーズケーキ」といったものを食べてみて美味しかったが、アメリカで日本にない日本食を食べるという何とも不思議な体験だった。



週末は、ホストファミリーがたくさんの場所に連れて行ってくれた。その中でも特に心に残っているのは海。広い海と砂浜に感動すると共に秋の澄んだ冷たい風が吹いて心もすっきりしたような気がした。私たちと同じように犬と一緒に海に来ている人が大勢いた。街へ出ても結構犬と一緒にいる人をたくさん見かけるので日本ではあまり見慣れない光景だと思った。また、ホストファミリーと出かけて驚いたことは知らない人でも自分が気になること、例えばオレゴン大学のTシャツを着ている人に「昨日の大学のアメフトの試合見に行ったの？」と声をかけていて、聞かれた相手も普通に答えて

いてなんだか不思議な光景だった。

ホストマザーもホストシスターもたくさん話しかけてくれたけど私は全然聞き取れなくて申し訳ないと思った。でも、そんなことを気にする素振りもなく次から次へと話しかけてくれたことが嬉しかった。特に、エリザベスはお店に行って、私がジーっと商品を見ているとそれについて詳しく説明してくれて本当に勉強になった。また、私のホストファミリーはスマホの翻訳機能を使わなかったので説明するときは写真を見せてくれたり、ジェスチャーをしたりで伝えようとしてくれて話す英語に多く触れられたことが嬉しかった。

最後は涙のお別れだった。前日の夜から寂しいね、寂しいねとハグをしてくれてこんなに温かくて素敵な家族に出会えたことに感謝すると同時に、今回の研修ではなかなか自分の考えていることを英語で話すことができなかったのもっと英語を学習してまた会いたい。正直この研修に参加すると決めるときはかなり勇気が必要だったけれど参加させてもらえて本当に良かったし、これからも新しいことに積極的に挑戦していける自分でいたいと思った。



【この研修で学んだこと】

岐阜県立大垣東高等学校 2 年 西村 結

○ホームステイで学んだこと

私がお世話になった家族は、父・母・息子の 3 人家族でした。父は弁護士で、母は専業主婦、息子は大学生です。私がホームステイでいちばん驚いたことは、日本との習慣の違いです。室内でも靴を履いていたり、浴槽とトイレが同じ場所にあるなどです。しかし他にもあります。ご飯を外で食べたり、休日は家族で過ごすことが多いのです。日本でそのような家庭はあまりありません。車では必ず助手席に乗せてもらいました。お店の入り口や、家の玄関のドアは男の人が何も言わずに開けてくれます。それは知らない人の時もありました。「レディーファースト」という言葉の通りの行動だと思いました。



嬉しかったこともたくさんありました。好きな食べ物を聞いてくれたり、何かやりたいことはあるかと聞いてくれたり、私を本当の家族のように扱ってくれました。

父は、私にたくさんの話をしてくれました。住んでいる地域のことや、小さい時の息子のこと、とても楽しかったです。そして、私の話もたくさん聞いてくれました。ゆっくり少しずつだったけど、自分の話した英語が通じたということは、私にとってとても大きな

自信になりました。

○全体を通して学んだこと

最初は自分の英語がアメリカで通じるかどうか、とても不安でした。だからはじめはあまり話すことができませんでした。しかし、だんだん慣れてくると自分がわかる範囲の英語で話せるようになりました。アメリカの人は、日本でいうと大阪の人に似ています。話し出すと止まりません。そのため、だんだん理解できなくなります。そんなときに聞き返すと、もっと簡単な英語に変えて話してくれます。わからないことは何でも聞き返すことが大切です。



訪問先の高校ではたくさんの人に声をかけられました。アメリカの高校生はとても積極的でした。そのため多くの友達できました。最初はとても緊張していましたが、すぐに打ち解けることができました。SNS の ID を交換するなど、連絡を取る手段を得ることもできました。いちばん仲良くなった友達は、家に招待してくれて、家族の人とも仲良くなりました。アメリカの人は日本人よりフレンドリーで、とても親しみやすかったです。

この研修は、私にとって将来の夢を定めるきっかけになりました。アメリカの高校では多くの人が日本語の授業を取っています。私たちももっと英語を学ぶべきだと思いました。決められた文法を覚えるだけでなく、日常会話や英語を聞き取る力も必要だと思いました。

【ホームステイ】

岐阜県立大垣東高等学校 2 年 服部 楓



3 ヶ月ぶりの再会。私は期待と楽しみでいっぱいでした。温かく迎えてくれたホストシスター。ホストファミリーと過ごす5日間がとても楽しみになった再会でした。家に行く途中の車の中、ホストシスターのテイラーはユージーン市の紹介をしてくれました。テイラーの家は、私が想像していたアメリカの一般的な家とは少し違いました。でもハロウィーンが近いということで外にはハロウィーンの飾り付けがされていてそこでまず文化の違いを感じました。

ホームステイ1日目の土曜日。私はホストシスターと一緒にショッピングに行きました。「Victoria's Secret」や「PINK」などのアメリカで有名なブランドに連れて行ってもらいました。アメリカのスーパーマーケットも気になったので連れて行ってもらいました。日本のスーパーマーケットと違い、物価が安いのに量、大きさ共に大きくとても驚きました。家に帰ると2人でメイクをしていました。メイクが好きという共通点があり、お互いにお互いのメイクをしあったりして遊びました。

3 日目、4 日目の学校訪問では、日本語クラスに行きました。日本語の勉強を始めて1年目、2年目、3年目の3つのクラスに行きました。どのクラスもみんな意欲的で本当に日本語が好きなんだなあと思いました。放課後にはテイラーの車で友達と一緒にドライブをしました。

今考えると、アメリカは日本とはだいぶ違い、つらいこともたくさんありました。例えば、ホームステイの受入をする家庭は、ゲストからお願いされなくても朝食の用意をするのが当たり前だと思っていたのですが、私がホームステイした家では、朝食が出ませんでした。しかし、私は空腹に耐えられず、ホストファミリーに「朝ごはんを食べたい」と言うと、用意してくれました。やってもらえるのを当たり前だと思い待っているだけではなく、自分がしてもらいたいこと、自分の思っていることを言葉で言わないといけなことが分かりました。でもそれを知り、理解するのも「アメリカ研修」で、それも今では楽しい思い出話です。

今回の研修を通してとくに文化の違いについてたくさん学びました。今回の経験を通してこれからの生活に生かせればな、と思います。



【オレゴン研修を通して】

岐阜県立大垣北高等学校 2 年 花木 琉里

初めての海外に不安などを感じる余裕もないほど興奮して、飛行機に乗ること 9 時間、とうとうアメリカに来てしまったという喜びと同時に、日本の高校生は翌日の課題に追われているのだという背徳感がありました。どこへ行っても英語しか聞こえないし、道はずっとまっすぐで見渡す限りさら地、路上でリコーダーを吹いている人もいて、到着して早々、異文化を直に感じる事ができたのがとても嬉しかったです。日本はその頃夜中のはずなのに、なんの疲れも感じないままビーバートン市警察署の乗り心地の悪いパトカーに乗ったり、何の味なのか分からないスープを飲んだりしているうちに、バタバタと初日が終わりました。まだ 1 日しか経っていないのか、とホテルで何回も思うくらいの収穫に喜びながら、たくさんの枕に顔をうずめて泥のように眠りました。

2 日目、オレゴン大学を訪問して、これはもう一つの街ではないのかと思いました。とても広かったです。また、雑貨屋までの行き方を一人の若者に聞いた時、親切にもそこまで連れて行ってくれたのには感動しました。アメリカ人の優しさに触れた、と思いました。その道中のマーケットに置いてあったカタカナの T シャツには笑いました。その日の夜からは待ちに待ったホームステイ生活の始まりです。まず、日本ではめったに見ることのないトラックでのお迎えに驚きました。最初はアメリカンな風貌のホストファザーに緊張しつつも、お互いにニルヴァーナが好きだとわかると、一瞬で家族の一員になったようでした。ホストファミリーには、本当に良くしてもらって、感謝の気持ちでいっぱいです。家族皆にお土産を買ってくれたり、レーザータグをさせてくれたり、海へ連れて行ってくれたりしました。特に、私のおかしな英語をなんとか聞こうとしてくれた事やジェスチャーでコミュニケーションを取ってくれた事には、自分の未熟さも痛感させられましたが、頭が上がりません。上の写真は、海を背景に撮ったものです。彼女は夏に私の家に来ていた事もあって、今回の滞在でとても仲良くなりました。お互いに片言の第 2 言語で会話をする様子は、傍から見ればおかしな光景だと思いますが、良い経験になりました。初めての外国人の友達なので、大事にしたいです。



そしてこの研修で一番学んだことが多いのが高校訪問です。学校に足を踏み入れた最初の感想はおそらく扉でかつ!だったと思います。日本の国会議事堂の扉のように天井の高さくらいまで扉があって、思わず突っ込みたくなりました。学校ではホストシスターのジェイデンの友達と交流しました。トランプ政権の話だったり、同性婚の話だったり、日本の高校生よりも大人な意見が多くて世界に目を向けているということがよく伝わりました。また、その子達と放課後に何回か遊びに行ったのですが、お墓で遊ぶのが好きと言っていたのは少し不謹慎だけど異文化を感じました。左下の



の写真はその時に撮ったものです。一番右に写っているのがマーサで、彼女は日本語が話せます。どうしてもマーサがいる間は日本語の会話になってしまいましたが、それもお土産話です。

この滞在で、実際に行ってみないとわからないことがたくさんあると学びました。外国の人と理解はできなくても、お互いに違いを認め合い、近づくには、内に籠らずにどんどん自分から行動を起こす事が大切だと実感しました。

【研修、ホームステイについて】

岐阜県立大垣北高等学校 2 年 早藤 瑞起

私は、アメリカの高校へ行って、日本の高校との違いにまず驚かされました。また、高校では多くの生徒が知らない人にも、気に入ったら声をかけて仲良くなる姿を多く見ました。私にも自己紹介をしてくれる子が多くいて、すごく嬉しかったです。大学では、日本語がわかる人が一緒に行動してくれたり、一緒に昼食をしてくれたりしたので、色々な事を話すことが出来ました。これらの事によって、日本の大学へ行って、日本で就職しなくても良いんだと、自分の将来への考え方が大幅に変わりました。今回の研修で、今までの、自分の考えが根本から覆されたような気がしました。狭い世界にいるのでは無く、大きな視野を持って、これから色々な事に積極的に挑戦していきたいと思いました。



ホームステイでは、ホームステイは初めてではなかったけれど、以前はホストシスターで今回は、ホストブラザーだったので、だいぶ緊張していました。正直、英語が分かんと言っても、少しだけだったので、まず、聞かれても、分かんなくて首をかしげるか、間違った答えを返してしまうことがありました。しかし、私のホストファミリーは、皆さんとても親切で、聞かれたことと間違った答えを返した時も、「違うよ」と笑って返してくれたので恥ずかしかったです。

すが、間違えても大丈夫だとその時に思うことが出来ました。その後、一緒に過ごすにつれて、日増しに緊張が取れていきました。ファミリープログラムでは、1 日目にショッピングを、2 日目に滝を見に行きました。1 日目では、ショッピングの後、だいぶ時間が余ったから、ハイキングや鳥を見にバードパークに行きました。ハイキングでは、一緒に頂上まで登ってくれて、疲れたけど達成感がありました。バードパークでは、日本では、見ることもない種類の鳥が何匹もいて、こんなに何も知らなかったんだと自分が無知なことを、改めて実感させられました。2 日目は、滝を見に行きその後湖に行きました。滝では、温度差が激しく、滝に近づくにつれて、すごく寒かったです。しかし、滝の近くでは、虹がかかっていて、滝の間近に行けたのですごく新鮮でした。また、湖では、ボートに乗っている人や、釣りをやっている人など、色々な人がいました。他にも、アケードゲームをしたり、家の庭で星を観たり、自分でTシャツを色付けしてオリジナルTシャツを作ったり、家の周りを散歩したりなど、色々な体験をさせて頂きました。

ミラー家のところにホームステイに行けたことがすごく嬉しかったし、アメリカに滞在中、本当に楽しく過ごせたのはアメリカの家族の皆さんのおかげだと思うので、とても感謝しています。ありがとうございました。

平成 30 年度フレンドリーシティ交流事業

第 3 回大垣市高校生アメリカ合衆国オレゴン州ビーバートン市、ユージーン市
研修派遣事業 【研修スケジュール】

<事前研修>

日時・内容	
全体説明会	6 月 23 日(土) 9:30~12:00 ・自己紹介 ・説明(日程、渡航手続等) ・次回の研修に向けて
第 1 回	7 月 14 日(土) 9:30~16:00 ・係、団の目標について ・国際理解講座 ・プレゼンテーションについての話し合い
第 2 回	8 月 11(土) 9:30~16:00 ・英語学習 ・先輩団員との交流会 ・プレゼンテーションの練習
第 3 回	9 月 2 日(日) 9:00~16:00 ・英語学習 ・プレゼンテーションの練習
第 4 回	9 月 29 日(土) 9:00~14:00 ・プレゼンテーションの練習
出発式	9 月 29 日(水) 11:00~11:30
最終説明会	9 月 29 日(水) 14:00~16:00
第 5 回	10 月 8 日(月・祝) 9:30~16:00 ・英語学習 ・プレゼンテーションの練習 ・現地での研修に向けた最終確認

派遣期間	10 月 11(木) ~ 10 月 19 日(金)
------	---------------------------

<事後研修>

日時・内容	
第 1 回	11 月 10 日(土) 9:30~16:00 ・報告資料作成
第 2 回	12 月 1 日(土) 9:30~16:00 ・報告資料作成 ・報告会の練習
報告会	12 月 15 日(土) 13:30~15:00



【第3回 大垣市高校生アメリカ合衆国オレゴン州 ビーバートン市、ユージーン市研修派遣報告書】

編集 公益財団法人 大垣国際交流協会

大垣市室本町5丁目51番地 スイトピアセンター学習館2階

TEL 0584-82-2311

FAX 0584-82-2314

URL <http://www.i-oiea.jp>

発行 平成30年12月